

## 休園になっても残したい 思い出をDVDに

昭和46年に開園した成器北幼稚園が、この4月に勝山中部幼稚園と統合し、その36年の歴史に幕を閉じました。3月25日には同幼稚園で休園式とお別れパーティーが開催され、教育委員会や幼稚園関係者並びに同幼稚園卒園の小学生ら108人が集まりました。そして、参加者は休園記念DVD「さようなら、ありがとう。」から映し出される映像でこれまでの歴史を振り返り、休園を惜しみつつ、園旗を貢納しました。

1年ほど前から立ち上げた特別委員会では、父母の会会長の前田達哉さんや副会長の澤充さんが中心となり、旧父母の会のメンバーも加わり、企画を練ってきました。そして、思い出のDVDを制作することになりました。制作は仕事の経験を活かして同幼稚園卒の杉下朋年さんが、担当しました。「子どもの笑顔で幼稚園の歴史をつづりましたが、36年間のアルバムから限られた数の写真を選ぶのは、つらくて大変な作業でした。」と苦労話を語る杉本さん。前田さんは「36年間のアルバムを集めるのが大変でした。でも、全てに関わった人の気持ちに感謝したいです。」とほっとした表情を浮かべていました。



「サボテンの花」などのバックミュージックが流れる中、スクリーンに映し出された映像で思い出をしのぶ参加者の皆さん



健康長寿課長から愛称決定の報告を受ける小山さん



## 『かつやま恐竜の森』 長尾山総合公園の愛称決定

長尾山総合公園の愛称が『かつやま恐竜の森』に決定しました。

同公園は、県立恐竜博物館を核に、恐竜をテーマとした公園として認知され、県内外から年間25万人を超す多くの来園者を迎えています。

恐竜にちなんだ愛称をつけることにより、「恐竜王国」を対外的にアピールし、市民や来園者にとっても、より親しみやすい公園とすることを目的に愛称を募集しました。

全国各地から584点もの応募をいただき、その中から千葉市の坂本栄生さん（59歳）の作品が採用されました。坂本さんには感謝状と記念品が贈られます。

この愛称は、勝山という地名と恐竜がアピールでき、「森」には公園を超えた大きな広がりや自然環境保護がイメージできます。また、ひらがなとした「かつやま」には、親しみとやさしさを感じることができます。

4月1日からホームページや各種印刷物、看板などに活用します。可愛がってください。



子どもたちでにぎわう長尾山総合公園「かつやま恐竜の森」

## 地域包括支援センターの 愛称が『やすらぎ』に 決定

平成18年4月に地域包括支援センターが設置され、高齢者の総合相談窓口として健康、福祉、生活に関する様々な相談に対応しています。そこで同センターを親しんで利用していただくために、今年1月に愛称を募集したところ49点の応募があり、その中から小山久子さん（鹿谷町保田）の作品『やすらぎ』が愛称に決定しました。

応募した小山さんは「受賞の報告を聞いてビックリしました。地域包括支援センターを知らないかたもいると思うので、皆さんが理解して利用してもらえるようになると思いますね。『やすらぎ』という言葉は、平和や幸せに満ちているから出てくるものだと思います。相談に来た高齢者が、心の『やすらぎ』を感じてもらえるよう支援するセンターになってほしいです。」と、愛称決定の感想を語ってくれました。

## 青春ing



### 自衛隊で社会のために貢献したい

川原 朗さん(22才) 滝波町1 写真右  
川原 敏寛さん(18才) 昭和町2 写真左

3月16日、勝山市から自衛隊に入隊予定の若者を激励する会が市役所で行われ、川原一朗さんと川原敏寛さんの2名の青年が出席し、山岸市長から激励を受けました。

自衛隊に入隊するきっかけをお聞きすると、「中学3年生の時に将来について考える中で、先生のアドバイスから自衛隊に関心をもち、人のためになりたくて自衛隊に入隊することになりました。」(川原一朗さん)、「部活動の先輩から、『自衛隊は心身を鍛えられるし、日本のために働ける』と推薦され、社会に貢献したいので入隊を決めました。」(川原敏寛さん)と、しっかりと

した返事が返ってきました。

今後の抱負では、一朗さんは「早く環境に慣れ、自分を高めるためにいろいろな資格などを取得し、幹部を目指しがんばります。」、また敏寛さんは「まず、しっかりとした大人になりたいです。そして、がんばって勉強して、上を目指したいです。」とのことでした。

川原さんたちは、4月から教育部隊に配属され、3ヶ月を経た後、陸上自衛隊の各部隊に配属される予定です。一朗さんは山登り、敏寛さんは陸上、バレー、バドミントンと二人とも体力に自信のあるスポーツマン。日本のためにがんばってください。

## すてきに人生



### 「農と歩む私の人生」が受賞

岩岡 千賀子さん(48) 荒土町境

昨年、全国から公募された農業への優れた活動記録「2006年毎日農業記録賞」の一般部門で優良賞を受賞した岩岡さん。生まれは福井市の中心市街地で、周辺に田畑のない環境で育ちました。

岩岡さんが縁あって勝山に嫁ぎ、農業と関わることになったきっかけは、トラクターを運転してみたらと家のかたに誘われ、田んぼに入ったこと。そして、農家に嫁いでの半生をつづった「農と歩む私の人生」を応募したところ、受賞されました。

岩岡さんは農業に携わり、「外国から輸入された食物が並んだスーパーの野菜コーナーには、季節感が感じられません。外国産に頼り切った

今の日本の食物事情に危機感を覚えます。」と心配されています。

日頃の農作業では、岩岡さんがトラクターを運転して、畦や排水溝を壊しても、ご主人は温かく見守り、叱ることもなく、感謝しているとのこと。また、「あちこち体が痛くなり、天気次第の農業は大変ですが、自分の手で実りを収穫し、食べるの喜びは、何物にも代え難いものです。」と農業への思いを語ってくださいました。

趣味はトランポリン。4年前に子どもさんが始めたのをきっかけに、今では子どもへの指導にもあたっています。